

11年間の縦断的研究による 介護等体験での学生意識変化

—特に施設での体験から学生が学ぶもの—

田 実 潔

11年間の縦断的研究による介護等体験での学生意識変化 ——特に施設での体験から学生が学ぶもの——

田 実 潔
Kiyoshi TAJITSU

目次

- I. はじめに
- II. 目 的
- III. 方 法
- IV. 結 果
- V. 考 察
- VI. 結 語

[Abstract]

An 11-year Study of the Effects on Students Who Participated in Nursing Training

A nursing training experience is required for students who want to acquire a teacher's license. However, what students learn from this nursing experience has never been clarified. This paper attempts to clarify what students learned, based on a questionnaire survey that was given to students before and after their nursing experience. Students were asked mainly about their experience in social welfare facilities and what they had learned. The data was analyzed by statistical analysis (t-test and two-way factorial ANOVA). The results of the analysis show that students had a significant experience. On the other hand, it was also shown that the experience was not reflected in the educational curriculum of the university.

I. はじめに

本学では、1998年の「小学校および中学校の教諭の普通免許状に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」(以下「介護等体験特例法」)にもとづき、中学校教員免許(本学で取得可能な中学英語と中学社会)について、教員免許取得希望者には3年次での介護等体験が義務づけている。介護等体験義務化を規定している介護等体験特例法については、実施上の様々な問題点や(富田2002, 小寺2003), 制度上の問題や法案成立過程における正当性の問題等の指摘等がある。小寺(2003)は介護等体験の有効性を認めつつも

「教員免許取得における介護等体験の必然性」と「体験内容の評価」等について問題提起をしている。田実(2008)は、介護という観点から、社会福祉施設と特別支援学校での体験が設定されているが、両所の介護等体験における質的差異についても明確ではなく、ある意味で社会的弱者である高齢者や障害のある人たちと接する体験、という括りに包含してしまっており、そこには教育や教員養成といった教職課程との関連性も曖昧なものとなっている、と指摘している。

しかし、一方で藤本(2003)や前田(2004)が指摘するように介護等体験を終えた学生の感想として、積極的に介護等体験を評価する

キーワード：介護等体験, 意識変化, 教職, アンケート調査

Key words: Nursing Experience, Consideration Change, Teacher Training Course, Questionnaire Survey

記述も多く見られている。本学でも事後指導の一環として介護等体験を終えた学生に、感想レポートの提出を義務づけているが、ほとんどの感想文には「新しい発見があった」とか「意義のある体験」、「自分の価値観や考えを改めることになった」、「高齢者の方への接し方が変わった」、「特別支援学校で見た授業には教育本来の視点があった」、「教師になりたい気持ちが強くなった」等の感想が挙がってきている。

このように、中学校免許取得希望の学生達が貴重な体験をしてきていることは事実であり、介護等体験の成果であるとも言えるが、小寺(2003)の指摘する教職課程における「介護等体験の必然性」や「体験内容の評価」については、感想レベルでの雑駁な結論しか見だせていない。また、田実(2008)が指摘するように、社会施設と特別支援学校との両所での介護体験は、そもそもが質的に異なるものであり、特別支援学校の児童生徒に対して『介護』の対象として接することは特別支援教育の観点からは問題となるであろうことから、両所での体験は厳密には区別して検討すべきではないかと思われる。

そもそも、この「介護等体験特例法」は議員立法であるが、その制定趣旨は「将来教育現場で活躍される方々が、高齢者や障害者に対する介護等の体験をみずからの原体験として持ち、またそうした経験を現場に活かしていくことによって、人の心の痛みのわかる人づくり、各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資すること」(1997年5月28日 第140回通常国会衆議院文教委員会)である。このように、介護等体験を教員の資質向上と密接に関連づけて位置づけた場合、やはり介護等体験で学生が得てきたものが真に教員資質の向上に寄与するものであるのかどうか、社会施設と特別支援学校での体験の質的差違はあるのか、ひいては介護等体験で学んできたことをどのように大学教職

課程に反映させていくのか、またそのために体験内容に大学がどこまでコミットしていけるのか等が喫緊の課題であると考えている。

Ⅱ. 目 的

「介護等体験特例法」は1998年から施行されているが、本学では3年次生を対象に2000年度から介護等体験を実施してきた。筆者が本学に赴任し、介護等体験の事前事後指導を兼ねてアンケートによる意識調査を始めたのが2003年度である。以後11年間にわたりアンケート調査を行ってきたが、当初の理念からこの介護等体験により学生達が何を新たに学び、みずからの教員としての資質向上に意図的に位置づけてきたのか、といった介護等体験の本質論についての研究は多くはない。介護等体験施行から10年以上経過した今、学生自身の教職に対する意識や社会における教職に対する意識等が大きく変化してきている中で、再度教員としての資質向上という介護等体験の理想と現実について考察することを目的として、事前事後指導の一環であるアンケート調査を分析検討することとした。

Ⅲ. 方 法

1. 介護等体験の事前事後指導について

年度当初に3年生を対象に介護等体験希望者への事前指導を行い、諸注意や社会施設、特別支援学校についての概略説明を行っている。この事前指導の際に、事前アンケートと事後アンケート用紙を配付し、事前アンケートはその場で回収、事後アンケートは社会施設での体験と特別支援学校での体験が終わった1週間以内に提出させている。これらの提出されたアンケートは教員が保管すると同時に、学生達自らが本学独自の介護等体験事前事後指導チェック票を用いて提出の確認をさせるようにしている。4年生時の教員免許申

請時には、介護等体験の申請書とともにこの介護等体験事前事後指導チェック票を添えて提出することを義務づけており、チェック票の未提出者は教員免許の一括申請を受理しないこととなっている。

2. 対象

中学校免許の取得を希望し、2003年度から2014年度までの11年間に介護等体験を行った431人を対象に、事前と事後の2度調査用紙によるアンケート調査を行った。回収率は100%である。

3. 手続き

アンケートの質問項目は、1) 介護等体験全般に関する項目4項目と、2) 社会施設に関する項目8項目、3) 特別支援学校に関する項目19項目の合計31項目である(1)と2)については資料)。それぞれの質問項目は、2001年度実施の介護等体験事後感想文より、介護等体験に対する印象記述を抽出し、不適当な表現を除いて調査項目とした。それぞれの項目については、とてはいーはいーどちらでもないーいいえーとてもいいえ、の5件法で、それぞれの選択肢に順に1～5点を付加し、データとした。

本研究では、特別支援学校に関する質問項目19項目を除く12項目について統計分析することとした。分析の手続きは以下の通りである。

- 1) 得られたデータの平均評定値を事前体験と事後体験とで比較(対応のあるt検定)
- 2) 平均評定値を、事前・事後要因×初年度(2003と2004)と後年度(2012と2013)の実施時期による要因の2要因分散分析をそれぞれ行った。また分析に用いたソフトはWindows版SPSSである。

IV. 結果

介護等体験全般に関する事前調査と事後調査の集計結果をTable 1-1に、施設体験に関する事前調査と事後調査の集計結果をTable

2-1に示した。

Table 1-1 介護等体験全般に関する集計結果

		平均値	N	標準偏差
項目1	教員免許取得に介護等体験は必要と思いますか(事前)	1.99	431	.84
	教員免許取得に介護等体験は必要と思いますか(事後)	1.93	431	.96
項目2	介護等体験は貴重な体験になると思いますか(事前)	1.40	431	.57
	介護等体験は貴重な体験になると思いますか(事後)	1.27	431	.66
項目3	介護等体験は楽しみですか(事前)	2.49	428	.92
	介護等体験は楽しみですか(事後)	1.76	428	.84
項目4	介護等体験に行きたくないですか(事前)	3.57	431	.88
	介護等体験に行きたくないですか(事後)	3.61	431	1.01

Table 2-1 施設体験に関する集計結果

		平均値	N	標準偏差
項目1	施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事前)	3.54	430	.76
	施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事後)	3.83	430	.95
項目2	施設的环境は悪いと思っていますか(事前)	3.41	431	.70
	施設的环境は悪いと思っていますか(事後)	4.32	431	.85
項目3	施設のお年よりは孤独であると思いますか(事前)	3.29	413	.81
	施設のお年よりは孤独であると思いますか(事後)	3.65	413	1.03
項目4	施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事前)	3.11	257	.92
	施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事後)	3.67	257	.87
項目5	施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事前)	1.88	357	.61
	施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事後)	1.89	357	.72
項目6	施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事前)	1.76	429	.72
	施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事後)	1.86	429	.91
項目7	就職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事前)	2.27	431	.92
	就職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事後)	2.18	431	1.07
項目8	施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事前)	3.20	431	.93
	施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事後)	3.15	431	1.14

- 1) 介護等体験全般に関する4項目について、事前調査と事後調査の集計結果から平均値の比較(対応のあるt検定)を行った(Table 1-2)。その結果、項目2の『介護等体験は貴重な体験になると思いますか』と項目3の『介護等体験は楽しみですか』について、事前調査と事後調査で有意な(共に $p < .001$)差が見られた。項目2、3共に体験後の方が評定値が有意に下がっている。また、施設体験に関する8項目についても、同様に集計結果から評定平均値の比較結果(対応のあるt検定)をTable 2-2に示した。項目1の『施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか』と項目2『施設的环境は悪いと思っていますか』および項目3『施設のお年寄り孤独であると思いますか』、項目4『施設の子どもは身寄りが少ない場合が多いと思いますか』の4項目が事前調査と事後調査の比較で有意差見られ($p < .001$)、同様に項目6の『施設での

体験は教師の仕事に役立つと思いますか』の質問に対しても有意差がみられた (p < .05)。

と2004) と後年度 (2012と2013) を抽出し、それぞれの集計結果 (Table 3-1と4-1) およびそれらのデータの2要因分散分析結果 (Table 3-2,4-2) にそれぞれ示した。

Table 1-2 介護等体験全般に関するt検定結果

項目	内容	t値	自由度	有意確率
項目1	教員免許取得に介護等体験は必要だと思いますか(事前と事後)	1.06	430	.29
項目2	介護等体験は貴重な体験になると思いますか(事前と事後)	3.31	430	.00 ***
項目3	介護等体験は楽しみですか(事前と事後)	13.88	427	.00 ***
項目4	介護等体験に行きたくないですか(事前と事後)	-0.70	430	.49

*** p<.001

Table 2-2 施設体験に関するt検定結果

項目	内容	t値	自由度	有意確率
項目1	施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか(事前と事後)	-5.36	429	.00 ***
項目2	施設的环境は悪いと思っていますか(事前と事後)	-18.02	430	.00 ***
項目3	施設のお年よりは孤独であると思いますか(事前と事後)	-6.33	412	.00 ***
項目4	施設のお年よりは身寄りが少ない場合が多いと思いますか(事前と事後)	-7.10	256	.00 ***
項目5	施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか(事前と事後)	-0.18	356	.86
項目6	施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか(事前と事後)	-2.10	428	.04 *
項目7	教職希望者は必ず施設実習に行くべきである(事前と事後)	1.63	430	.10
項目8	施設での実習(5日間)は長いと思いますか(事前と事後)	0.92	430	.36

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001

2) 介護等体験全般に関するデータと施設体験に関するデータの11年間の経年的変化を見るため、全データのうち、初年度 (2003

Table 3-1 介護等体験全般に関する集計結果 (事前・事後×初・後)

項目	時期	平均値	標準偏差	N
項目1 (事前)	初年度	1.94	.72	83
	後年度	2.11	.89	80
項目1 (事後)	初年度	1.89	.88	83
	後年度	2.00	.98	80
項目2 (事前)	初年度	1.40	.60	83
	後年度	1.50	.60	80
項目2 (事後)	初年度	1.17	.38	83
	後年度	1.28	.57	80
項目3 (事前)	初年度	2.54	.95	82
	後年度	2.47	.92	79
項目3 (事後)	初年度	1.77	.82	82
	後年度	1.73	.90	79
項目4 (事前)	初年度	3.58	.83	83
	後年度	3.45	.99	80
項目4 (事後)	初年度	3.65	1.04	83
	後年度	3.53	1.03	80

Table 3-2 介護等体験全般に関する分散分析結果 (事前・事後×初・後)

項目	要因	F 値	自由度	有意確率
項目1	事前・事後	.88	1	.35
	経年変化	1.74	1	.19
	交互作用	.14	1	.71
項目2	事前・事後	19.14	1	.00 ***
	経年変化	2.38	1	.13
	交互作用	.001	1	.97
項目3	事前・事後	77.64	1	.00 ***
	経年変化	.21	1	.65
	交互作用	.04	1	.84
項目4	事前・事後	.68	1	.41
	経年変化	1.05	1	.31
	交互作用	.00	1	.99

*** p<.001

Table 4-1 施設体験に関する集計結果 (事前・事後×初・後)

項目	時期	平均値	標準偏差	N
項目1 (事前)	初年度	3.52	.76	82
	後年度	3.74	.71	80
項目1 (事後)	初年度	3.65	1.09	82
	後年度	4.03	.73	80
項目2 (事前)	初年度	3.33	.78	83
	後年度	3.43	.67	80
項目2 (事後)	初年度	4.14	.91	83
	後年度	4.40	.61	80
項目3 (事前)	初年度	3.22	.90	77
	後年度	3.38	.81	77
項目3 (事後)	初年度	3.42	1.06	77
	後年度	3.84	.89	77
項目4 (事前)	初年度	3.35	.80	49
	後年度	3.00	.82	54
項目4 (事後)	初年度	3.61	.70	49
	後年度	3.81	.89	54
項目5 (事前)	初年度	1.96	.61	55
	後年度	1.90	.75	78
項目5 (事後)	初年度	2.00	.64	55
	後年度	1.83	.63	78
項目6 (事前)	初年度	1.77	.69	82
	後年度	1.73	.69	80
項目6 (事後)	初年度	1.82	.76	82
	後年度	1.83	.82	80
項目7 (事前)	初年度	2.31	.95	83
	後年度	2.28	.98	80
項目7 (事後)	初年度	2.29	1.08	83
	後年度	2.16	1.07	80
項目8 (事前)	初年度	3.31	.92	83
	後年度	3.18	.98	80
項目8 (事後)	初年度	3.22	1.18	83
	後年度	3.15	1.04	80

Table 4-2 施設体験に関する分散分析結果 (事前・事後×初・後)

項目	要因	F 値	自由度	有意確率
項目1	事前・事後	5.40	1	.02 *
	経年変化	9.15	1	.003 **
	交互作用	0.88	1	.35
項目2	事前・事後	124.0	1	.00 ***
	経年変化	4.28	1	.04 *
	交互作用	0.93	1	.34
項目3	事前・事後	10.30	1	.002 **
	経年変化	7.60	1	.07
	交互作用	1.75	1	.19
項目4	事前・事後	20.22	1	.00 ***
	経年変化	0.47	1	.50
	交互作用	5.23	1	.02 *
項目5	事前・事後	0.03	1	.86
	経年変化	1.86	1	.18
	交互作用	0.39	1	.53
項目6	事前・事後	0.96	1	.33
	経年変化	0.04	1	.84
	交互作用	0.11	1	.74
項目7	事前・事後	0.45	1	.50
	経年変化	0.44	1	.51
	交互作用	0.19	1	.66
項目8	事前・事後	0.33	1	.56
	経年変化	0.69	1	.41
	交互作用	0.12	1	.73

* p<.05 ** p<.01 *** p<.001

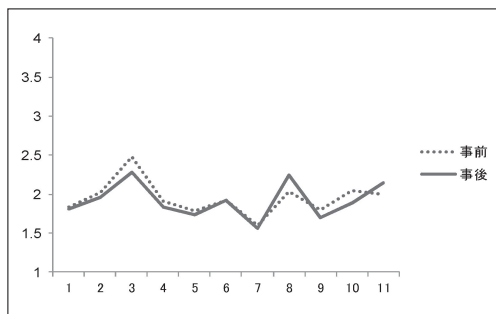


Fig. 1-1 介護等体験全般に関する項目1の経年変化

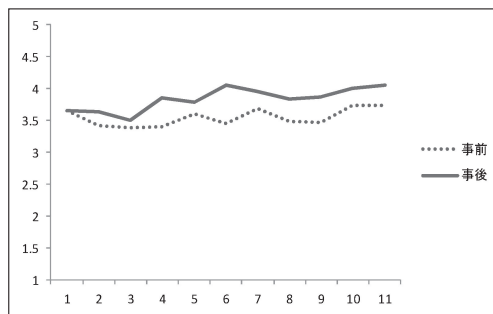


Fig. 2-1 施設体験に関する項目1の経年変化

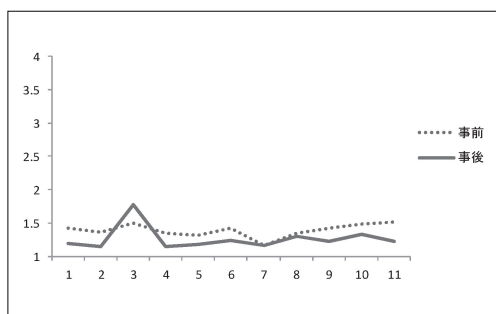


Fig. 1-2 介護等体験全般に関する項目2の経年変化

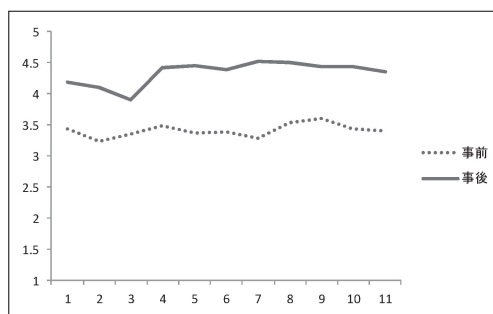


Fig. 2-2 施設体験に関する項目2の経年変化

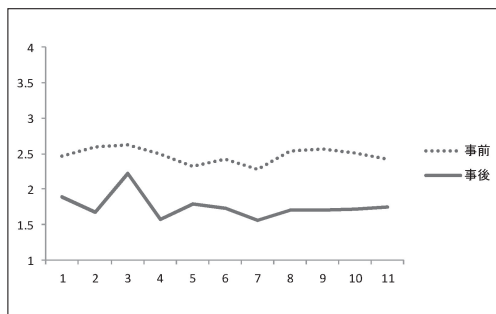


Fig. 1-3 介護等体験全般に関する項目3の経年変化

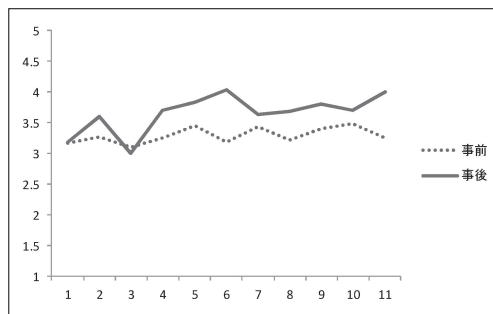


Fig. 2-3 施設体験に関する項目3の経年変化

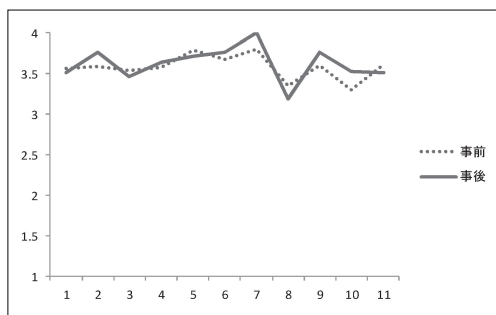


Fig. 1-4 介護等体験全般に関する項目4の経年変化

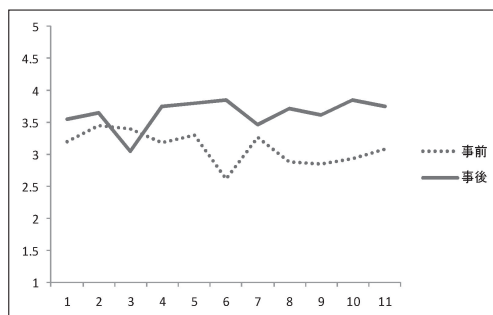


Fig. 2-4 施設体験に関する項目4の経年変化

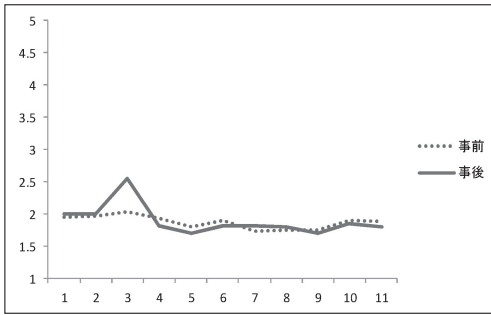


Fig. 2-5 施設体験に関する項目 5 の経年変化

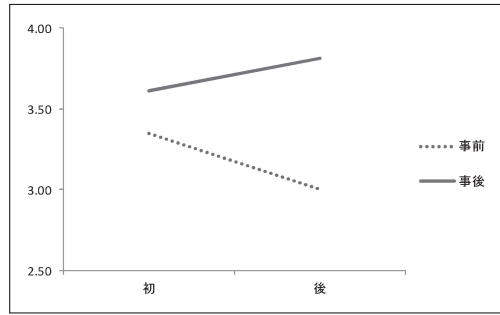


Fig. 3 施設体験に関する項目4の2要因分析結果

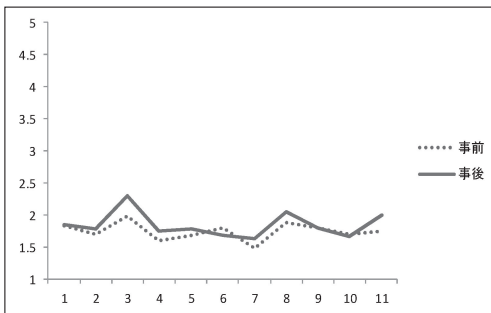


Fig. 2-6 施設体験に関する項目 6 の経年変化

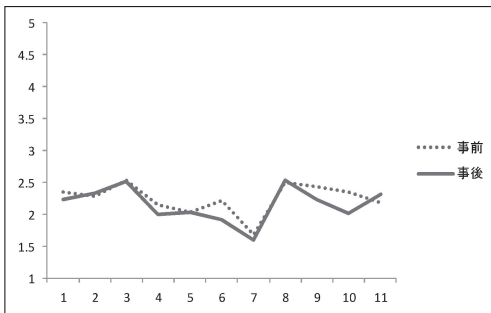


Fig. 2-7 施設体験に関する項目 7 の経年変化

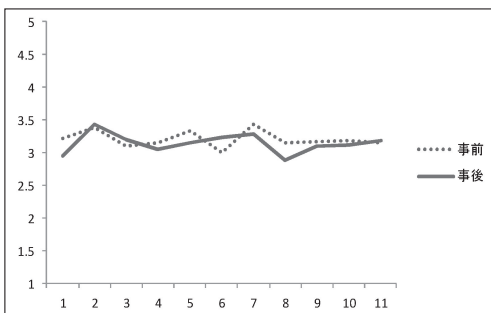


Fig. 2-8 施設体験に関する項目 8 の経年変化

また、経年変化を見るため、介護等体験全般に関する項目の1～4について Fig. 1-1～Fig. 1-4に、施設体験に関する項目1～8について Fig. 2-1～Fig. 2-8に示した。縦軸は平均評定値、横軸は介護等体験の実施年度（アンケート調査実施年度）を示している。破線が事前調査におけるデータ、実線が事後調査におけるデータである。

2 要因分散分析の結果、単純主効果は施設体験に関する項目の項目 1 ($p < .01$), 項目 2 ($p < .05$) においてみられたが、交互作用については項目 4 ($p < .05$) のみであった。結果を Fig. 3 にグラフで示す。

考 察

1) 介護等体験全般と施設体験について、全データを対象とした事前調査と事後調査の比較分析の結果、いくつかの項目で統計上の有意な差がみられたが、いずれも体験を肯定的あるいは前向きに評価するようになっていた。本調査の5件法評定では、数値が高いほどいいえ、つまり否定的の評価が強くなるように設計されているので、項目2の『介護等体験は貴重な経験になりますか』や項目3の『介護等体験は楽しみですか』については、介護等体験前の印象（ガイダンス直後に事前調査を行っている）よりも実際に介護等体験を経験した直後（体験終了後1週間以内に事後調査は提出）の方が、

それぞれ1.40→1.27, 2.49→1.76と評定値が下がっている。このように介護等体験全般に関しては、体験後にはより貴重な体験として意識していたり、楽しい体験ができた、という学生の評価傾向が示されている。田実(2008)は、同じアンケート調査を用いた研究において、項目2にみられる介護等体験への肯定的な理解は、結果として項目3の期待度に反映されており、楽しかった、という評定が事後において事前の評定よりも有意に高くなっているのではないかと同様の指摘をしている。

同様に施設体験についても、項目1『施設に入っている人たちは可哀想だと思いますか』が3.54→3.83、項目2『施設的环境は悪いと思っていますか』が3.41→4.32、項目3『施設のお年寄りや孤独であると思いますか』が3.29→3.65および項目4『施設の子供は身寄りがない場合が多いと思いますか』が3.11→3.67と数値が上がり、社会福祉施設に対する理解不足から生じる誤解について、その意識が改善される傾向にあり施設体験の重要性が示されている。

- 2) 事前・事後要因×初年度(2003と2004)と後年度(2012と2013)の実施時期による要因の2要因分散分析で、項目4『施設の子供は身寄りがない場合が多いと思いますか』で交互作用がみられた(Fig.3)。初年度の事前調査における平均評定値が3.35事後調査における平均評定値が3.61である。それに対して後年度では事前における平均評定値が3.00事後におけるそれが3.81となっている。近年良く言われている経済格差やさまざまな要因によるいわゆる貧困の格差、児童虐待の増加等が初年度当時よりは後年度は進んでいることは周知の事実であるが、後年度の学生達はこのような社会情勢から、施設に入所している子どもたちはさまざまな理由から身寄りがない孤独な子どもが多い、と感じているようであった。しか

し、実際に体験後では初年度頃よりも身寄りのない子どもたちが減っているように感じているようであった。この背景となる社会情勢は複雑なものがあり、本研究だけのデータではその理由を明確にすることはできず、今後のデータ収集とより詳しい分析が必要であろう。

Fig.1-1から2-8に示した評定値の経年変化については、11年間で有意な差は見られなかった。介護等体験は中学校教員の免許取得に必要な体験とされているが、本学の学生の評定値が11年間でほとんど変わっていないことから、本学で教員免許を取得しようとしている学生、特に中学校教員免許の取得を希望している学生については教職や介護等体験に対する意欲が11年前と変わっておらず、本学の学生の教職に対するモチベーションや意欲が変わっていないことを示しているのかもしれない。いずれにしても、本研究におけるデータと分析からは明確な知見を得ることは難しく、今後の追跡とデータの蓄積を積み上げて行く必要がある。田実(2008)は、取得する教員免許の教科による違い、あるいは所属する学部学科での専門性の違いによる考察をしている。具体的には本学の傾向として女子が多い英語科と男子が多い社会科、あるいは英語が取得できる文学部英文科と社会科が取得できる主に社会福祉学部・経済学部との学部学科教育カリキュラムの相違を踏まえた考察を加えている。本研究で分析対象としたアンケート調査回答者である学生達が在籍していた2001年以降は、本学では大きなカリキュラム変更(学科再編等)がなかった時代であったことが結果に表れているとも考えられる。

本研究での分析結果を介護等体験を義務教育教員免許取得のための教職課程の必須カリキュラムであるとの観点から総合的に考察すると、社会施設での体験は具体的に

教師としての仕事にはより役立つものと意識できるようになるが(施設体験の項目6)、介護等体験全般で有意差が見られなかった項目1(教員免許取得に介護等体験は必要と思いますか)や4(介護等体験に行きたくないですか)、施設体験の7(教職希望者は必ず施設体験に行くべきである)等で、体験前後の気持ちの変化が見られなかったことから、大学における義務教育教員養成上のカリキュラムとして今後どのように学生に指導していくべきか、また体験の内容を改善していくべきか(大学としてどのようなコミットができるか)検討を進めるべきであると思われる。田実(2008)が指摘しているように、データ分析上では介護等体験の社会施設体験は教職志望学生にとって教員としての資質を向上させる体験とはなり得ておらず、上記の検討は今後の継続すべき課題である。

VI. 結 語

介護等体験は、社会施設体験と特別支援学校体験に分けられるが、本研究では社会施設体験のみに限定して分析を行った。特別支援学校での体験については、別稿で報告することとしたいが、教育実習等で学生受け入れの

実績がある特別支援学校に対して、社会福祉関係の実習として学生を受け入れることは多いかもしれないが、教職課程の体験として学生を受け入れる経験の少ない社会福祉施設における体験内容について、田中(2005)が指摘するように、大学教職課程のカリキュラムとの関連性を検討していく必要がある。

本研究の一部は、第24回日本教師教育学会において発表した。

文 献

- 富田 新(2002):介護等体験を教師教育にどう生かすか.教師教育研究,vol15,pp47-61.全国私学教職課程研究連絡協議会.
- 小寺慶昭(2003):「介護等体験」実施上の問題点教師教育研究,vol16,pp41-49.全国私学教職課程研究連絡協議会.
- 田実 潔(2008):介護等体験による学生に意識変化について-教職志望学生が介護等体験から学ぶもの-.北星学園大学文学部論集,vol45, No. 2, pp73-82.
- 藤本典裕(2003):介護等体験への取り組み-東洋大学の場合.教師教育研究,vol16,pp51-61.全国私学教職課程研究連絡協議会.
- 前田輪音(2004):介護等体験実習の体験内容の検討.北海学園大学学園論集,vol120,pp23-38.
- 田中敦士(2005):介護等体験に対する受け入れ学校・施設側の認識.日本特殊教育学会第43回大会発表論文集,pp526.

資料 アンケート調査項目

1)介護等体験全般に関する項目

- ①教員免許取得にあたり介護等体験は必要と思いますか
- ②介護等体験は貴重な体験になると思いますか
- ③介護等体験は楽しみですか
- ④介護等体験に行きたくないですか

とてもはい	はい	どちらでもない	いいえ	とてもいいえ

2)施設に関する項目

- ①施設に入っている人たちは可哀相だと思いますか
- ②施設的环境は悪いと思っていますか
- ③施設のお年寄りは孤独であると思いますか
- ④施設の子どもは身寄りがない場合が多いと思いますか
- ⑤施設の障害者たちにはサポートが必要だと思いますか
- ⑥施設実習の経験は教師の仕事に役立つと思いますか
- ⑦教職希望者は必ず施設実習に行くべきである
- ⑧施設での実習(5日間)は長いと思いますか

とてもはい	はい	どちらでもない	いいえ	とてもいいえ